



# 喜多埜

## 神葬祭の話

今月十五日は一般に云うお盆です。本来は七月十五日に行われるものですが、明治の太陰暦から太陽暦への改暦の際に、月遅れとなり、現在は八月十五日になりました。(関東地方では今でも七月十五日で行われるところが多いようです)

お盆は今でこそ仏教の行事とされますが、本来は日本人の祖霊崇拜に基づくもので、**神道の考え方が根底にはあります。**

この祖霊を祀るという事は、即ち御葬儀より始まる訳ですが、日本では江戸時代に**檀家制度**という日本人全員を仏教徒とした法令がありましたので、今でも八割以上の方は仏教徒であり、神道での御葬儀についてご存じの方は大変少ないようです。

神道での葬儀を神葬祭と云いますが、その流れとしては大まかに云えば仏式と似たような流れとなります。大きな違いは、焼香ではなく玉串を捧げる事と、戒名は無く、また仏教では死者は西方浄土へ旅立っていかれるのに対して、神道では**家の護り神**として、その靈魂は留まるという考え方にあります。

また、ご先祖さまの靈魂は御神札をお祀りしている神棚と一緒にはお祀りせず、**御霊舎**という神道式の仏壇のようなものに分けてお祀りするというのも神道ならではの形です。

ご先祖さまは、**最も身近な神さま**です。神道、仏教と頑なに考えず、このお盆には**先ずは今在る事への感謝**と、子孫長久を祈念して御霊舎、お墓に手を合わせましょう。

## 菅家文章上梓二二一年

昌泰三年八月十六日。時の帝であらせられた醍醐天皇の勅願により、天神さまこと菅原道真公が菅原家の漢詩集を編纂したものが『**菅家文章(かんげぶんそう)**』です。本年はこの菅家文章が上梓されてちょうど二二一年という揃目の年にあたります。

この菅家文章は道真公が十一歳の時に初めて漢詩を詠まれてから、この昌泰三年までの**四十五年間の詩作の集大成**ともいえるべき漢詩集で、太宰府に流されてからの『**菅家後草**』と併せて、平安時代の詩文集としては史料的にも作品としても重要なものとして知られています。そのうち、夏を詠んだ一つをご紹介します。

### 夏日 四絶 「苦夏」

未出炎蒸天地鏞

蒸し暑くまるで天地の火鉢から出られないようだ

況行世路甚崎嶇

まして世間を進む事の厳しさといったら

家児不放山林去

だが、子どもがいれば逃げ出す訳にもいかない

苦熱庸材一腐儒

この暑さに苦しむ凡庸な一人の教員

一一一年前の天神さまも夏の暑さに耐えておられました。節電の夏に負けず、この暑さを乗り切りましょう。

### 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、  
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

